

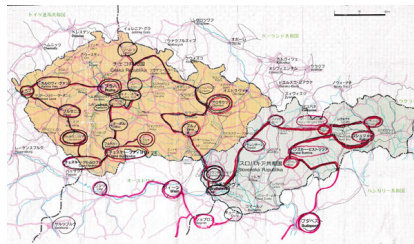
## 3300 欧州 88 夢紀行：チェコ プラハ

10 日間「東欧の旅」の日本人グループと偶然出会った。言葉を交わすうちに、お茶を飲む有意義な機会を持った。

コンダクターから情報収集。また、興味を持たれたので、持参の写真集などご覧いただき、久楽作品の絵葉書ももらっていただいた。人恋しかったのと、情報不足だったので、有難くラッキーだった。

身体の調子は今ひとつで、ポーランドでの厳しい環境と体験が影響しているようで、緊張感からの偏頭痛が、完治せず、厳しい状況になると痛む。荷物も重く、肩にかかり、頭まで影響するのの一因。精神的にタフなつもりだったが、いささか… とは言いながら、久楽的には成果の多い時間だった。

プラハの話は機会があればということで…。プラハから西へ。



ボヘミア、温泉のカルロヴィ・ヴァリ、中世の街並みが残るヘブ (cheb) プルゼニユ、季節的には、まだ早く、緑なく残念。天候も条件が悪い。感動の光景との出会いなく、魅力に欠けた。時期が？  
ポーランドに比べて、治安もプラハ市街を除けば、問題なく、無事に旅を続けられている。

慣れてきたこともあり、ものが見えはじめた。プラハは素晴らしかったが、地方を見ると、貧しい国のように思える。

ドイツとの国境、Vimperk、Hotel,Anna に宿泊。チェコの通貨でなく、ドイツマルクでの表示。

通貨の信用と流通が、すべてを象徴しているのではないか。

歴史の重なり、その時、その時を大切にしないと、後世に禍根が残ったり、倍の力を要求されたり、

今という時を、大切に生きることの大切さを痛感した。

過去の点のつながりが現在。現在の点のつながりが未来。旅と人生にも通じる。

時期的に、木々の芽吹きには、今少し時間が必要で中途半端。例年より低温とのこと。  
私だけでなく、チェコも乗り切らないのかもしれない。余分な期待をせず、淡々と、この環境内での写真を  
どう撮れるかに集中したい。光と色、構図や角度、少し、集中できる落ち着きが戻った。

明日は、ボヘミア南部、世界遺産、チェスキー、クルムロフ、  
そして、湖水のあるキャンプ地を探訪したいと思っている。情報では、  
国境沿いの深い森の地と聞いている。

今日も雨で寒く、ボヘミア南部の湖水も曇って、写真には難しく、  
本来なら、ヴァルタヴァ川を北上し、ブラハマまでと計画していたものの、まだまだ寒く、  
光も色彩もなく、シーズンオフで条件が悪すぎた。**断念。**

世界遺産のチェスキー、クルムロフは、雨の中の探訪ながら、強く印象に残った。  
この時はフィルム写真で記録。写真としてどのように出来上がってくるか楽しみである。観光地は予想通り、  
人は少ないが危険な気配？ 天候不良。その時は、標準レンズのカメラ1台での勝負だった。

日本人が珍しいのだと思うが、危険な状況にも遭遇。寸前で回避できた体験。若者でなく大の大人ゆえ？  
いずれにしても、単身でカメラを持ち歩くには、最大の注意をしないと駄目と再確認。  
旅も人生も、いいことばかりではない。悪いことばかりでもない。

シーズンオフだが、ボヘミア南部でホテルに飛び込み。客は私一人だけ。あまり気持ちの良いものではない。  
先方も、商売とはいえ、気持ちが良かったかどうか、大いに疑問？  
しかしよく見ると、ホテルとレストランを併用。通路のある奥のレストランにはお客があるようだ。

レストラン、次々と観光客か、ご近所の人かわからないが、賑やかになりだした。お腹が、グーとなった。  
久薬も… 英語は通じない。チェコ語の一部を持参してきているが、注文するだけでも難しい。  
メモとボディランゲージを交えて、何とか通じた。特産というか、地産のものも体験したい。行儀が悪いが見渡した。

そして、分からないように、店の人に指さした。外見だけではわからない。  
簡単な説明。幸い好き嫌いが無い。思い切って注文。日本人のマナーとして残すわけにはいかない。  
味ではない。量の問題。満腹と安心。いい思い出になった。